

【教育目標】

【知】自ら学び、考え、進んで行動する人

【徳】互いを尊重し、協力する人

【体】心身ともにたくましく健康な人

杉並区立中瀬中学校

下井草4-3-29 TEL 3399-2196

学習評価の仕方が新しくなりますⅡ

校長 香西 雅斗

前回の通信で「学習評価の仕方が新しくなります」という説明が、副校長からありました。速く走ったり計算できるより、思考力・想像力などが重要となる時代。実は評価だけでなく『学習の目標と内容』も新しくなり、その変化に沿って学習も評価も工夫されていきます。



＜散歩みちのサクランボ＞

【1】10年前とは何が変わったのか (10年ごとに改訂される学習指導要領より抜粋)

例:[保健体育～長距離走]

…長距離走では、ペースを守り一定の距離を走ること

例:[数学～正負の数の四則計算]

…小学校で学習した数の四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の意味を理解すること

H20→H31

例:[保健体育～長距離走]

…長距離走では、ペースを守って走ること

例:[数学～正負の数の四則計算]

…算数で学習した数の四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の方法を考察し表現すること

長距離走では「一定の距離」が削られています。これは“一定の距離”を走る学習をしないという意味ではなく、“ペースを守って走る”ことに重点が置かれていることを示しています。この点で、本校の『12分間走』は新指導要領に合った学習内容であり取組と言えます。

正負の数では四則計算の「意味を理解」のところが「方法を考察し表現」と代わっています。つまり「教えてもらってわかる」という受け身の授業でなく「演算の規則を(自分で)見つけ、理由を考え、伝える」という主体的な学習に重点が置かれていることを示しています。

この様に全ての教科で『目標と内容』が改訂され、学習の仕方(授業を含む)が変わり、当たり前ですが、評価の仕方(テストの内容を含む)が変わっていくことになるわけです。

【2】さらに30年ほど前までさかのぼると

体育の長距離の単元を例にすると、1500mのタイム順に7%が5、24%が4、38%が3…という様に割合が決まっている“相対評価”でした。数学などでも学期2回の定期考査の得点だけで評定(成績)をつけている先生も少なからずいました。

でも「これでは“単なる測定結果によるランク付け(輪切り)”“生徒の学習(教員の側からすると指導)の改善につながらない”から評価とは言えない」ということで現在の“絶対評価”に変わりました。具体的には、指導要領に示された『学習の目標と内容』に沿って、単元の内容ごとに到達度を評価し、それを積み重ねて評定(成績)とするやり方となったのです。

＜評価について補足＞

①評価は生徒の学習(教員の指導)と表裏一体…例:単元の最初に1500m走のタイムを測るのは評価ではない。例:短時間に多くの計算ができることは『学習の目標と内容』にない←評価の軸とならない。

②評価するのは、能力や努力を学習で発揮した成果…能力や努力は目に見えないからそのものを評価することはできない。例えば“努力”では『学習の目標に向け、粘り強く考え、振り返り、改善しようとしていることが示された』ノート等が評価される←ただきれいに写したノートは“教科”の評価の対象とはならない。

入学式・新入生歓迎会

昨年に続いて今年も、新入生と保護者だけの入学式でした。新入生の『誓いの言葉』を紹介します。

『誓いの言葉』 前原 鈴 1C

私達はたくさんさんの思い出と経験を積んだ小学校を卒業し、今日新たな夢と希望をもつて中瀬中学校に入学しました。初めて制服に袖を通し中学校に足を踏み入れた時、自分が中学生として大人への一歩を歩み始めたということ強く実感しました。中学校の学習は、小学校よりも教科が増え難しくなります。私は、どんな学習も小学校で習ったことを土台とし、その上に学んだ事を積み重ねていきたいです。部活動も楽しみな事の一つです。どの部活動でも、友達や先輩方、先生方から学べることがたくさんあり、様々な経験ができると思います。

昨年は新型コロナウイルスの影響で、やりたい事が思い通りできず、大変で少し難しい年となりました。しかしその一年を経験した私達なら、これからの中学生生活で起こるどんな事も、乗り越えられるはずだと思います。時には自立し、時には周りの人達と協力しながら、思い出に残る三年間を創り上げていきたいです。

最後になりましたが、今まで私達を暖かく見守り支えてくださった保護者の皆様。この様な素晴らしい式を準備してくださった先生方、先輩方、本当にありがとうございます。今日から三年間、よろしくお願ひします。



入学式では『歓迎の言葉』はできませんでしたが、4/9(金)の新入生歓迎会で新入生に伝えられました。

『歓迎の言葉』 西山明里 3B
新一年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。中瀬中学校へようこそ。

私達は皆さんが入学するのを楽しみにしてきました。そして同時に、今まで私達が見てきた先輩たちの姿を、今度は皆さんに示す番だと、緊張や責任を感じています。憧れの先輩になれるよう努めていくので、どうぞ私達を頼ってください。

皆さんが中瀬中にどんな色をもたらしてくれるのか期待しています。共に新たな中瀬中を切り拓いていきましょう。

中瀬中学校の行事について紹介します。来月末から準備期間に入る体育大会は、四色のチームに分かれ、学年を超えて仲間を応援し合います。本気で走って踊って、熱い一日になります。

運動が得意でない人も、係や応援など、自分のできることに全力で取り組んで貢献します。中瀬中が目指すのは、運動が得意でない人でも「苦しかったけどやって良かった」そう笑顔で言える体育大会です。

十月には音楽発表会があります。『音楽の中瀬』の名に恥じぬ、感動の歌声がホールに響きます。ソプラノ・アルト・テノール・バスと、幅のある歌声が重なり合い、深い音楽が生まれます。中瀬中学校の校歌も混声四部合唱です。皆さんと共に、全校そろって歌うのが楽しみです。

どちらの行事も実行委員会を中心に、自分達で練習を工夫し、各自のできることを考えて取り組みます。

私は中瀬生の特徴は、自主性が高いことだと思います。「中瀬中学校が好きだから良いものを創り上げたい。」その思いを一人一人がもち、それぞれの場所で輝く。私達、生徒全員が主役です。

目立たなくても、自分のできることを自分で考えて一生懸命やる、それが中瀬中の生徒であり、そんな仲間と支え合って成長していける場が中瀬中学校です。

私はそんな中瀬中学校を、誇りに、大切に思います。皆さんも、もう中瀬生です。先輩方が引き継いできたこの学校での三年間を、精一杯楽しんでもらえたら嬉しいです。



新入生歓迎会は、3年生の代表生徒が中心となり運営を行いました。

学校生活の紹介の後、専門委員会の前委員長から、委員会の活動紹介があり、その後、人数を絞って各部活の活動の紹介をしました。



<生徒会役員・専門委員長よりの呼びかけ>



<吹奏楽部の紹介>



<男子バスケ・女子バスケの紹介>

学級代表委員会委員長の挨拶を紹介します

学級代表委員会は、小学校の代表委員会のような仕事をしている委員会です。中瀬中ではよく「学代」と呼ばれます。

学代は学年ごとに、クラスや学年の皆が過ごしやすいやすい学校にできるような活動しています。

クラスや学年の課題について話し合ったり、解決するための取組を考えたり、中央委員会のメンバーとして、学校全体に関わることも行います。時には、学年行事の企画や運営をすることもあったり、色々な仕事ができるのが、学代の魅力です。

学代には、特別な能力などは、全く必要ありません。誰かの役に立つことで喜びを感じることができたり、こんなクラス学年にしたい！という理想がある人は、みんな学代に向いています。

一年生の皆は、中学校生活のスタートで、様々なことに挑戦するチャンスです。学級代表委員会に少しでも興味をもつてくれた人は、ぜひ学代のメンバーとして、良い学年を作り上げていってください。きっと充実した中学校生活を送ることができるとは思います。

関口 瑛貴 3C

『お礼の言葉』 田近 友菜 1C
今日は、この様な楽しくて素晴らしい会を開いていただき、ありがとうございます。

私達一年生は、大きな期待と不安を胸に入學してきました。中学では新しい事をたくさん経験します。例えば、小学校の時よりも難しく量が増える勉強や定期テスト。そして今回説明してもらった委員会や部活動などです。

私達の中には、どの委員会や部活に入るか迷っている人、部活と勉強を両立できるか不安な人など、いろいろな人がいると思います。でもそういった不安を乗り越えて、私達は中瀬中学校の生徒として成長していきます。

小学校は六年間もあつたのに、中学はその半分の三年間という短い時間です。その三年間で、先輩達から伝統を受け継ぎ、立派な中瀬中の生徒として、一日一日を大切に過ごしていきたいと思えます。



生徒会長 西山さんの「中瀬中学校が好きだから良いものを創り上げたい。その思いを一人一人がもち、それぞれの場所で輝く。私達、生徒全員が主役です。」というメッセージが一年生に伝わった、良い時間となりました。引き続き3年生の思いを紹介します。

3年生になって～作文紹介～

『3年生として』 坂上 陽香 3A
春。この季節になるといつもとても緊張する。環境が大きく変化するからだ。人間関係や、難しくなる勉強に不安を抱きながら、また新学期が始まる。今年はいよいよ3年生だ。今まで見てきた先輩のように、先輩の良いお手本にならなければいけない。そのため私は、大切にしようと思っていることが2つある。

1つ目は努力をすること。体育大会や音楽発表会などの行事では、3年生が1番輝いて見える。それは本番当日まで、とてもたくさん練習をしてきたからだろう。必死の努力の結果は見る人を引きつける。私がそうだったように、先輩たちが「あんな3年生になりたい。」と思える。そんな発表ができるように頑張りたい。

2つ目は、何事にも率先して取り組むこと。自分から動く姿を見せることで「ああ、あれは楽しいのかもしれない。」〇〇さんがやっていたから私もやってみようかな。」と動いてくれる人が増えるだろう。自分から動くことと誰かに言われてやることには大きな違いがあるのだ。

これから一年間、大変なことがたくさん待っていると思う。行き詰ってしまうこともあるだろう。そんな時、私はこの2つのことを思い出し、頑張っていれば、自分を見えてくれる人はたくさんいるのだと視野を広げるきっかけになればいいと思う。

『変えたいこと』 本間 大智 3D
僕は、3年生になって明確に変わったと思うことは今のところないが、変えていきたいことがいくつかある。

1つ目は、勉強に対する取り組み方だ。今までは、仕方なくやっていた、親に言われるまでやらなかったり、答えを写したりしていた。しかし、これからは自分のために勉強するということを理解して、自主的に、しっかりと勉強に取り組んでいきたいと思う。

2つ目は、自分で判断をすることだ。僕はなかなかの決断を決められなく、最終的には「どっちでもいいよ。」と言って他の人に任せることが多かった。でも、高校に向けての進路は他の人に決めてもらうことができない。自分で選び、決める力を付けたい。

最後は、責任についてだ。中瀬中の最高学年として、先輩も増えて、今までのように上級生に頼る側ではなくて頼られる側に変わって責任の大きさも変わり、自分の行動の一つ一つに責任を持たなければいけなくなってきたから。中瀬中の3年生として恥ずかしくないように過ごしていきたい。

3年生になることで受験があり大変になるが、これらのことや部活などをちゃんとやって充実した3年生の生活にしていきたい。

『enjoyします』 今井梨乃 3C

春が来た。私は中学最終学年いわゆる受験生となった。昨年の今頃も母校の中、作文を書いていた。時の流れが早く、あつという間に一年が経った。きつと、卒業までの約一年も風のように早く過ぎ去るのだと思う。これからの行事一つ一つが「最後」となる。私は思いっきり悔いなく取り組み、楽しみたい。

過去2年間、1学年上の先輩方には部活や委員会で大変お世話になった。心優しく相談のつてくださる先輩、見かける「お疲れさま。」と声をかけてくださる先輩など私の憧れそのものだった。憧れているだけでなく、そんな先輩になるしかない。

自分はどうやって後輩たちに良い影響を与えられるか考えたところ、「思いっきり楽しむこれが自分らしく伝えられるのではないか」と思った。笑顔でいて、何事も楽しんで取り組んでいる姿は、周りへの影響力が大きいはずだ。

これから先、想像もできない程に辛いことがあると思う。全てが望みどおりになるとは思っていない。後悔はしたくないから自分のできる限りは、何事も力を尽くしたい。

先月の卒業式の日、先輩方は皆、口をそろえて「中瀬で良かった。」と言っていた。とても晴れ晴れとした笑顔だった。マスク越しでも伝わるほどに。自分の卒業式の日「中瀬で良かった。」と自信をもって言えるようにしたい。約一年後、学年全員で清々しい春を迎えられますように。

『最高学年として』 松尾翔 3B

コロナの影響が続いている中、僕たちは最高学年になりました。正直まだ実感は湧きませんが、昨年度、行動が制限されている中で様々な行事を成功させることができたのは奇跡だったと思います。これは学年全員が協力して工夫を重ねた結果だと思えます。

校長先生は「中瀬中の3年生になることは簡単だけれど、あり続けることは難しい。」とおっしゃっていました。僕は本当にその通りだと思います。中瀬中の3年生であり続けるということは、中瀬中全体の責任を背負っていくことです。それには、学年全体の協力と信頼が必要不可欠です。その「協力と信頼」をより強固なものにするためにも、これからある修学旅行や体育大会などの行事に全力で取り組むということが大切だと思います。

一部の人が協力して行事を成功させることよりも、全員が試行錯誤をして、苦労や工夫、失敗や成功を重ねて行事を作り上げた方が素晴らしいと思うので、それを実現させるためにも、クラス・学年・学校全体で団結力を高めていきたいです。

そして、最高学年である3年生は、中学校生活の締めくくりとしてリーダーシップを発揮したり、音楽発表会などの行事に3年間の集大成として取り組んだり、受験があつたりとても忙しくなるでしょう。それでも、自身のことばかりを考えすぎずに、視野を広げて周りの人と助け合えるような学年にしていきたいと思えます。

『3年生に進級した生徒たちが、憧れた先輩たちの姿を目指し、誰よりも中瀬中を想い、仲間たちのことを考え、苦労しながら行動する。その歩みを通して、自分たちも後輩たちに尊敬される、後輩たちが憧れる先輩になっていく。』

これは中瀬中が、ただ個人が集まっている場はなく、異年齢の生徒達がつくる有機体だからこそ起こる、生徒たちが自らの成長を促進する、相互作用です。(だからこそ“全ての行事は三年生のために”です)

タブレット使用開始

2・3年生は4月最終週にタブレットを配布、朝学活でログインし、国・社・数・理・英の学習ソフトも使えるようになりました。毎日家に帰るので、授業の予習や復習に使えます。

1年生は台数がそろっていないので、配布は少し先になりますが、学習ソフトは使える準備ができました。そこで5月15日(土)は下校後に、全学年でオンラインホームルームを行うとともに、1年生にも学習ソフトを家で使えるようにします。(土曜授業の中で、オンラインホームルームの仕方を説明します)



○ 学校では、休み時間などもタブレットを使い、調査や予習復習を行えます。ただ授業の開始時にタブレットを閉じておきます(シャットダウンはしなくてよい)。

※ タブレットは道具です。自分を成長させ仲間と助け合うために活用するのか、自分をだめにし人を傷つけてしまうのかは、使う人にかかっています。中瀬生として頑張りどころです!

※ タブレットのきまりは、使う生徒たちが決めることとします。3年生を中心に考えていきましょう。その際「人のタブレットに触らない、操作しない」は、必ずいれておいてください。

○ タブレットの分、カバンが重くなるので、教科書は必要に応じて、家に持ち帰ることにします。

○ 黒板をタブレットで写すこともOKです(担当の先生の許可をもらうことを忘れずに)。

手に入った道具(タブレット)を、有効に、賢く、どんどん使っていこう!